

(国語)

香簍の国語 ～豊かな言語力・表現力を養う指導法の研究～

大阪市立香簍小学校

1. 研究主題設定の理由

学校を挙げて三年間取り組んできた「私たちの国語科研究の成果」という意味を含めて主題を設定した。多くのワークシートなどオリジナルで作成してきたことも主題に「香簍」を冠した理由である。また、三年間を通して言語力・表現力の育成にこだわって取り組んできたことから副題を設定した。

2. 研究の趣旨

「国語科はどのように指導したらよいのか」教員の中で曖昧になっていたことを明確にし、原理原則を捉えて指導できるよう研究に取り組んだ。研究していく過程で一年ごとに出てくる課題を受けて主題を柔軟に変化させた。

3. 研究の概要

研究一年目は、「豊かな言語力・表現力を養う指導法の研究～イメージや感覚で語る国語からの脱却～」という研究主題のもと、国語は何を教える教科なのか、どう教えるのか、そもそもなんのための教科なのか、国語科を根本から見つめなおし考えるところからスタートした。教材を学ぶのではなく教材で何を学ぶのかを考えながら授業をデザインした。

二年目は「身につく国語～読める、わかる、使えるを目指して～」という主題に決定した。国語科で学習した文章の書き方や文型を活かし、学校行事や学年で取り組んだ活動作文として表現させた。それを学期に一度、各学年の代表児童が全校朝会で発表する場を作った。また、作文の書き方を定着させ、できるだけ自身で間違いに気づけるようにするために『作文たしかめシート』を作成した。

三年目は「深い読みから表現へ ～活かす学びの充実～」と銘打ち、三つのことに取り組んだ。

一つ目は、国語科で学ぶことを一次から三次までつながった学習にし、「つけたい力」を意識した授業づくりをした。単元計画を組み立て、児童の「疑問」を解決することを通して「つけたい力」にアプローチした。

二つ目は、国語科と他教科との結びつきをより強固にし、国語科で学んだことを他教科で活かせるようにした。学習したことが他教科のどの単元に繋げることができるか可視化するために、年間計画や指導案に明記した。

三つ目は、児童自ら学習したことを活かす機会を作るため「自主学習 DAY」という取り組みを行った。毎月第二水曜日は、全学年宿題を出さず自主学習をする日にした。

4. 研究の成果と今後の課題

○成果

- ① 児童も教員も国語科に対しての苦手意識が低くなり、前向きにとらえることができるようになった。
- ② 一年ごとに協議を重ね、課題の解決に向け教員一同チームで取り組むことができた。
- ③ カリキュラムマネジメントを意識して授業ができるようになった。児童の中にも学習したことを活かそうという意識が芽生えてきている。

●課題

- ① 経年テストに出てくるような複雑な長文を読んで理解し、適切に応じる力が十分に養えていない。
- ② 児童の理解や表現力が二極化している。
- ③ 教師主体の授業からの脱却、そして子ども主語の授業づくりへ。

新たに出た三つの課題を克服するにはこれからも指導の工夫や自己研鑽が必要だと感じている。しかし、三年間の研究を通して学んだ力は児童の中で身となってきている。その力をこれからも伸ばせるよう、さらに研究を進めていきたい。